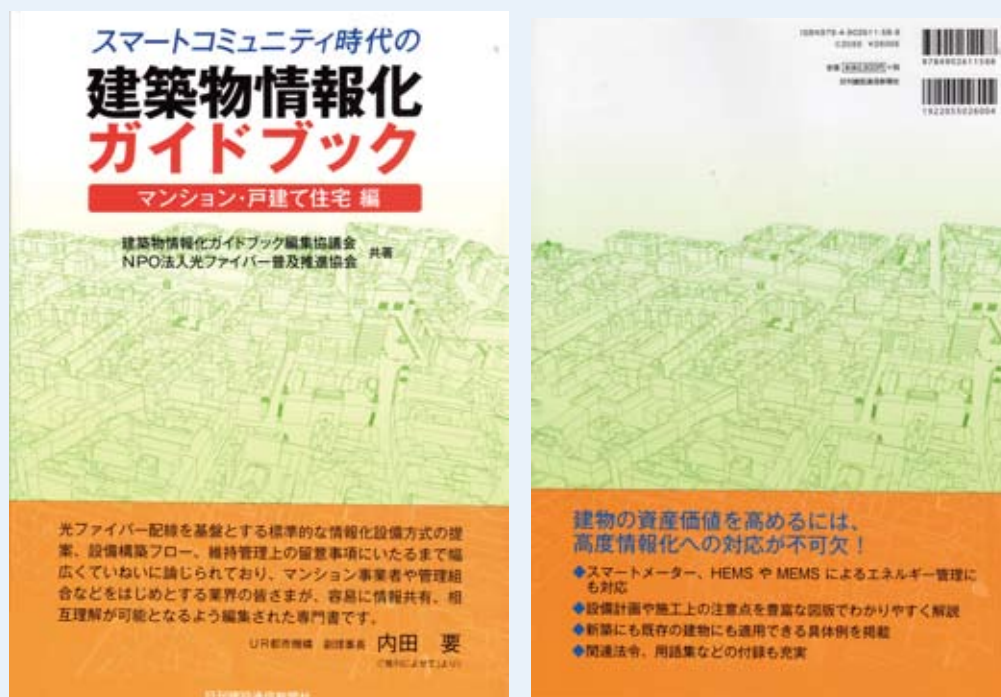


『建築物情報化ガイドブック マンション戸建て編』

—スマート時代の建築物に新たな指標を提供—



出版社：日刊建設通信新聞社

体裁：B5 判 カラー刷り 160 ページ

ISBN 978-4-902611-58-8

価格：2,600 円（税別）

建築物情報化ガイドブック編集協議会（事務局：NPO 法人光ファイバー普及促進協会、代表 後藤正弘）は、この度、参加する建設・設計・不動産・電子機器等の 18 団体の共同作業による「建築物情報化ガイドブック マンション編」を完成、出版致しました。

現在、インターネットの普及により各家庭でのネットワーク設備は必須のものとなっています。またスマートグリッドのための電力会社との相互情報通信や 4K・8K 規格の高解像度テレビ放送のデータ送受信など多方面での利用が想定されます。さらに、地域内閉鎖型情報網（光内線）を構築することにより、マンション内放送や情報回覧板などとしての利用も考えられます。

ところが、現在の建築においては、ネットワーク配線に対応する配管については「おまけ」程度の扱いになっており、工程の終盤になって後付けで施工されているのが実情です。そのため、新たに回線を敷設しようとしたときに対応できないといった問題も起きています。また、デベロッパー各社からスマートハウス／スマートマンションといった「スマート～」をキャッチフレーズにした物件がすでに販売されていますが、これらには決まった規格によるものではなく単に電力消費量の見える化に対応しただけのものであり、ネットワーク活用による将来の拡張性が担保されていないのがほとんどのように思われます。

以上のような状況をふまえて、NPO 法人光ファイバー普及促進協会が事務局となり関連する業界団体の参画・賛同を得てガイドラインを作成致しました。ここでは建物側のネットワークに光ファイバーを利用することを前提に、情報化建築の標準化を促進することを目的とし、建築物の情報通信設備の一式パッケージ化、工事簡素化のためのモジュール化を目指しました。

『建築物情報化』の主な内容

■4芯以上の光ファイバーの導入

導入する光ファイバーは4芯テープを基準とします。各芯線は、

1. インターネット・電話などの通信系、
2. テレビ等公共放送系、
3. 火災報知器や防犯・防災システム／機器などのセキュリティ系、
4. 閉鎖型情報通信網（光内線）やその他の利用系

とします。また将来の用途拡大に向けて事前に4芯テープを配線したり、後日の増量が容易な配管にしたりします。光ファイバーは素材の性格上急角度の曲げに対応できないため、配管経路の注意点も明記しました。

■住戸向け19インチキャビネットの規格化

現状の家庭用配電盤や情報通信機器は、サイズがばらばらで設置場所等の問題も生じていました。本書では経済産業省にご指導いただき、IEC SC48D 19 インチラック標準化国内委員会と連携。標準居室用ラックを採用したことで、機器類を1カ所でまとめて収納できるようになりました。

また、共有部分の情報通信機器もファイバースペースで19インチラックに収納することを標準としています。

■施工図面の管理

今まで情報通信系の配管については施工図面の管理があいまいで、そもそも図面が存在しないといったことが多くリフォーム時などに問題になっていました。

今後は「工事完成図書」の一部として図面もきちんと管理されることになり、リフォーム時だけでなく保守サポート時にも必要な情報が入手できるようになります。

■蓄電池について

非常時にこそ必要となる情報通信網。災害時に必要な情報が通常時と同じように入手できるように、各機器に必要な蓄電要量を提示します。

以上のようなガイドラインを示したことで、今後の機器の標準化などとも相まって消費者が得るメリットは大きなものがあると思われます。また今後の情報通信の発展も見据えて、各種バージョンアップにも柔軟に対応できる設備づくりを促進できるよう作成しています。

※建築物情報化ガイドブック編集協議会では引き続き「ビル・商業施設等編」の編集作業に入っており、今秋までに完了の予定です。